北岳バットレス中央稜

２００９年８月１４日～１５日
メンバー：L 白土、平本（記録）

去年はルートミスで白土君にはすまないことをした。寛大にも今年もお付き合い願えるという。しかも、かねてから念願の中央稜もOKとのこと、喜びも一入だ。
８月１３日
芦安始発のバスに乗り、広河原から大樺沢コースを登る。B 沢には残雪はなく、B 大滝も快適に登れる。
落石に注意して２尾根末端を横断して C ガリーを見下ろす。残雪がある。特にヒドンスラブ上の残雪が非常に気になり、４尾根末端へ向かう。
Ⅲ～Ⅳのリッジを２ピッチで４尾根取り付き大テラスに出る。ここまでもなかなか楽しいリッジクライムである。
最初の赤い岩クラックは見た目よりも難しい。Ⅴ－。次にⅢのスラブにつながり、緩傾斜帯。
尾根を右に回りこんで白い岩のクラック。Ⅲ（フェース登り）。少しリッジがあって、ピラミッドフェースの頭に出る。
ここから核心の三角形垂壁。正面から右に回り込んでゆくと手がかりがあるⅤ。今日はガスって高度感もないが、ここからマッチ箱の頭まで続くスッパリと開けたリッジが４尾根のハイライト。そして上部フランケ最終ピッチ付近に懸垂下降。
D ガリー奥壁を左に見ながら赤茶けたフェースⅣをマッチ箱コルまで上る。コル付近からスラブ状のカンテを枯れ木テラスまで登りⅤ、小休止。
リッジに上がり、バルジ（切れ目）を横断してⅢ級程度のフェースを登ると終了点につく。
終了点には岩小屋もあり、小さいテントなら３張り位は可能。
静かで穏やかなビバークとなった。明け方になりかなり冷え込んできて、シュラフレスの自分は震えて眠れない。
８月１４日
終了点から中央稜を覗き込むとそこに下降点はあった。
重力に従い下降すると、取り付きまで数十ｍトラバースしなければならない。これは大変だった。
数ｍ登り返すと中継点らしいものがあり。ここで切れば、２ピッチ目終了点のリンネ上に楽に出られるようだ。
リンネ上からトラバースで中央稜は始まる。多少難しいのは第二ハングの乗越し（A0 可）だけで、あとは高度感のみである。思い切って行くしかない。体が思い切り空中に飛び出すので怖くもあり、楽しくもある。岩質は想像以上に硬く、極めて快適で高純度な岩登りを楽しめる。

ハング上からリッジに出るトラバースも、高度感が素晴らしい。
稜角リッジに出てしまえば難しいところはないが、易しくも登り応えはある。徐々に傾斜は落ち、浮石が多くなってくると、ザイルを解こうかどうか迷うところだが、這松帯を経て頂上までザイルを使用した。
山頂にダイレクトに抜けることもこのルートの魅力のひとつでもある。天気は最高。落石もなく、とにかく登りきれて良かった。
満足した気持ちで４尾根終了点へ戻り装備品を回収して下山にかかる。
広河原に戻ると疲れがドッとでてきたが、帰路はたいした渋滞もなく厚木に帰り着いた。

共同装備の返却、清算の段になり、テントがないことに気付く。
とんぼ返りで芦安に戻り、翌朝８月１６日の始発バスで４尾根終了点の岩小屋に向かう。
無事テントは回収できた。
不眠で往復の運転、小屋への問い合わせ連絡など、今年も最後の最後で白土君には迷惑をかけた。
でも、なにかいい経験をしたような失敗だった。

コースタイム

８月１４日（晴のち曇）
広河原６：００～B 沢９：１５～B 大滝１０：００～末端取り付き１２：００～４尾根取り付き１３：００～マッチ箱のコル１５：１５～終了点１６：３０
８月１５日（快晴）
下降開始６：１５～中央稜取り付き７：００～頂上１０：００～広：河原１３：２０
８月１６日（快晴）平本単独テント回収のため、４尾根終了点まで往復。